

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

秋の深まりを感じる今日この頃ではありますが、皆様に於かれましては如何お過ごしでしょうか。

さて、昨年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が公布・施行され、同年12月に国が2060年に1億人程度の人口を確保するとした長期ビジョンと総合戦略を閣議決定したのを受け、我が愛知県においても、本年10月に人口ビジョンとその実現に向けた5ヶ年の総合戦略を策定しました。

本県は日本一の産業県であり、自然増・社会増の両方を維持しながら、人口増加を続けている数少ない県ではありますが、2020年をピークに遂に人口減少へと突入し、出生率が現状程度で推移すると仮定すると、2060年には現在より約150万人少ない600万人程度まで縮小すると見込まれております。

しかし、世界屈指の産業力を更に強くし、継続的に人を呼び込むことに加え、県民の皆様の結婚・出産・子育ての希望を叶え、出生率を現状より高めることができれば、2060年時点でも700万人程度を確保できるとの予測も成されており、こうした展望を実現していくためには、産業振興や雇用対策のほか、魅力発信、子育て支援、更には三河山間地域の振興など、幅広い政策に総合的に取り組み、持続的でバランスある愛知の発展を図っていく必要があります。

その為にも、先ずは2019年のラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、そして2027年のリニア中央新幹線開業など、この地域に影響の大きいビックプロジェクトを成功に導き、日本の活力を取り戻す核としての役割を果たしていくと共に、こうした愛知の発展を担うのは「人」でありますので、誰もがこの愛知を舞台に活躍できる「人が輝く愛知」を実現できるように全力で取り組んでまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず
樹神 義和

